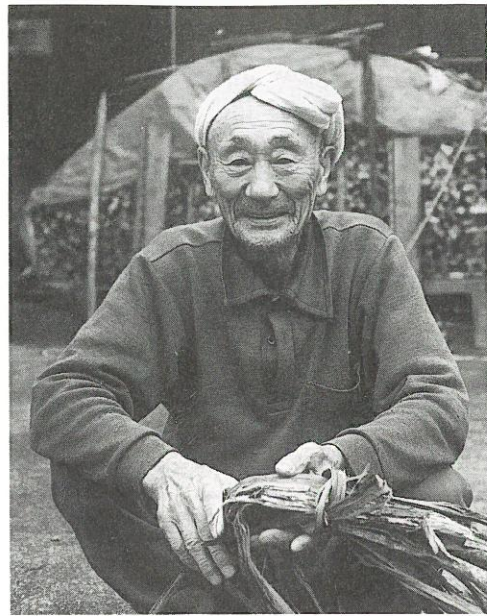


# 楽しく美しい まちづくり通信…④2

## 山の生活を楽しみながら 山ブドウで作るコダシ

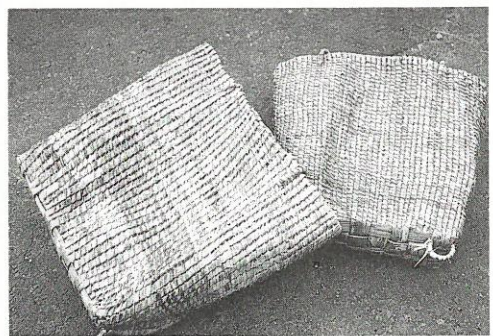


山ブドウ細工の名人  
はら だ くら ぞう  
**原 田 倉 蔵** さん (77歳)  
(上斗米字小端)

小端は、市の西の外れに位置する山の中の小さな集落です。太平洋戦争後に開墾が行われ、最盛期には十九世帯が住み、分校もあったそうです。しかし、厳しい自然条件、家計を支えてきた養蚕や林業の不況などにより、徐々にこの地を離れ、今で

は原田さん夫婦を含めて三世帯が残るだけとなりました。原田さんも、昭和二十二年に戦争から帰って、開墾に加わり山を拓き、雑穀や大豆を作りながら、桑を植えてカイコを飼ったり、山仕事をして八人の子供を育てたそうです。田んぼの少ない小端では、稲ワラは貴重なので、細工物によく山ブドウの皮が使われました。日当りのよい場所で育った太い

山ブドウのつるを、土用に切つて、真っ直に伸ばして乾かし、皮をはぎ、一番外側の皮は、結び縄として使い。二番目の皮はハバキ(すね当て)、三番目の皮はコダシ(背負いかご)の材料に、さらに皮をはぎとつた後の芯は、打ちつぶして、広げホウキにするなど、捨てるどころがないくらい重宝したといいます。この地域では、山や畑に出かける時は、山ブドウのつるで作ったコダシに弁当や道具を入れるそうで、一生使っても壊れないといわれるほど丈夫だといいます。原田さんは、良いコダシを作るためには、良い材料が必要なので、土用に入ると熊の出る山の方まで出かけ、節のない真っ直なつるを探してくるそうです。そして、硬い皮を裂いて編むので、手のひらがび割れ、大変手間がかかる、むずかしい仕事だということ、今では作れる



山ブドウのつるで作ったコダシ

人は原田さんだけになってしまいました。このように苦勞して作ったコダシは、使い込むほどにツヤが出て、落ち着いた色になっていくので、「皆さんが大事に使ってくれるのが嬉しい」と原田さんはいいます。原田さんの家は、軒下に一年分の薪が積まれ、地どりやウサギが飼われ、台所には年中おいしい沢水が流れ込んでいます。庭先で農作業をしていた原田さんは「春は山菜、夏はイワナ、秋にはキノコをとり、そして、冬は厳しいが、ストープにあたりながらじっくりとコダシなどを作ったりして。結構、山の生活も楽しいもんだ。」と笑いながら元気に山の生活を話してくれました。

★10月★

こよみ



10月11日～11月10日

- 27日(日) 原子力の日
- 26日(土) 原子力の日
- 25日(金) 原子力の日
- 24日(木) 交通事故相談(二戸地方振興局)、国連の日
- 23日(水) 減量化・再生利用推進岩手県民大会(市民文化会館)、電信電話記念日
- 22日(火) 1歳6カ月児健康診査(市保健センター)、市民生活相談(市役所市民相談室)
- 21日(月) 統計の日
- 20日(日) 統計の日
- 19日(土) 二戸市産業まつり、カシオペア街づくり・住まいづくりプラザ、カシオペア伝統芸能フェスティバル(フーキン)のへ・二戸市農協) 20日まで
- 18日(金) 統計の日
- 17日(木) 世界食糧デー(市保健センター)
- 16日(水) 2歳児歯科検診(市保健センター)、貯蓄の日
- 15日(火) 4カ月児健康診査(市保健センター)
- 14日(月) 鉄道の日
- 13日(日) 親子映画会(図書館)
- 12日(土) 親子映画会(図書館)
- 11日(金) 親子映画会(図書館)